

支援事例

鮮魚卸業からベンチャーへ 6次産業化で世界に挑戦

株式会社鮮魚丸松

企業代表者名 五島 輝幸
所在地 福井市
業 種 卸売業、小売業
事業内容 鮮魚の卸売りやEC、飲食店など、水産業の6次産業化を展開

活用事業名 福井ベンチャーピッチ、福井ベンチャー塾、成長支援メンタリングプログラム

事業活用までの経緯

五島社長は2016年に同社を創業。越前漁港の買参権を取得し、漁港で直接鮮魚を買い付けられるのが強みだ。産地直送の鮮度の良さと、卸ならではの値打ち価格が評判を呼び、業績好調の一方で、五島社長は危機感を感じていた。

鮮魚は年間の価格変動が大きく、仲卸事業者は価格変動の煽りを受けやすい。事業の成長を目指すためには、外的要因の影響を受けやすい仲卸業から、成長可能性の高い食品メーカーへと、今後は主軸事業を転換していく必要があると判断し、大きく舵を切った。

卸売りを中心としながらも飲食やECなど業態を派生させていき、売り上げは拡大。IPOを視野に入れ始めた五島社長は、中長期的な成長支援を行う当センターのベンチャー支援事業を活用することとした。



活用内容

五島社長は、2021年5月に当センターの「福井ベンチャー塾」に参加。現役上場企業の社長から直接アドバイスを受け、ビジネスモデルのさらなるブラッシュアップに取り組んだ後、資金調達・販路拡大を目指し、第7回福井ベンチャーピッチ（2021年11月）に登壇した。

登壇前の2カ月間におよぶメンタリングを経て、投資のプロを前に、新たなビジネスモデルを発表。大規模加工工場を新設し、瞬間冷凍させる技術「プロトン凍結機」を自社仕様で導入するなど、その斬新な6次産業化のアイデアは話題を呼んだ。

2022年1月には「成長支援メンタリングプログラム」に参加し、20社以上を上場させたベンチャーキャピタリストの指導を受け、ビジネスのさらなる成長を目指している。



利用された企業様の声

代表取締役 五島 輝幸 氏

これまでは、いっぱい事業を一斉に走らせがちでした。産業支援センターの事業を通じて、中小には中小の戦い方があると学んだことで、余計なものをそぎ落とし、ビジネスモデルのブラッシュアップを図ることができました。特に、福井ベンチャーピッチに登壇したことが大きかったです。メンタリング期間中に、会社の向かうべき方向性をしっかりと定められたからこそ弊社の今があると、感謝しています。